★中国モデルは脅威なのか＝ウィリアムＨオーバーホルト

西側の戦略家たちは、中国の指導者が西側の民主主義に替えて中国の開発モデルを売り込もうとしていると幅広く懸念を表明している。 実際はどうかというと、中国モデルは厳しく制約された状況下でしか機能していないし、これまでのところ中国の指導者はそのことを理解しているように見える。1 つの統治モデルをあらゆる状況下にあるすべての社会に適用しようとする努力は低い実績しか挙げていない。毛沢東は彼のモデルをいたるところに広めようとし、しばらくの間ダルエスサラームからバークレーまで多くの人々に影響を与えた。 しかし結局、彼のモデルは中国でさえうまくいかなかった。

西側には、現在の中国モデルが至るところに広まっていることに対する懸念はあるが、一方中国の思想家の間では、自国の権威主義的改革と開放のモデルは独特のものだと共通して考えられてきた。どちらも間違っている。中国は、共通の特徴を示す「アジアの奇跡」の経済圏 － 日本、韓国、台湾、シンガポール － のグループのなかでは遅参者である。

これらの諸国は皆、社会的に平等主義であり、その壮大な成長の時代には一党または支配的な党システムによって運営されていた。ゆるやかな市場化を行い、対外貿易と投資を段階的に開放し、成功した西側諸国から工業化と規制の最良のやり方を旺盛に輸入して、急成長を遂げた。

これらの諸国はまた、社会の崩壊についての恐ろしいトラウマと圧倒的な恐怖という死活的な経験を共通してもっている。第二次大戦敗北後の日本、朝鮮戦争後の韓国、国共内戦後の台湾、そしてマレーシアからのショッキングな分離後のシンガポールである。崩壊への恐怖があるために指導者たちは発奮し、あえて高リスクの破壊的政策を実行し、深刻なストレスのかかる社会的変化に対する一般大衆の反発を抑えこんでいる。

中国では、指導者による危険な変化の受け入れはコミューンの解体から始まった。このコミューンこそは共産党権力の主要なテコであり、党はそれを通じて人々の仕事と収入、居住地、家族の状況を完全にコントロールしていた。安徽省の農民たちが自分たちの家族農場を取り戻し始めたとき、これは共産主義権力の核心を脅かしたが、それはまた急速な経済成長を生み出した。トップリーダーたちは鄧小平に導かれて、当時は極めて危険とみられていた賭け、すなわちそのような成長が継続し、政府の収入を強化し、共産党に対する一般の支持を増やす

であろうという賭けをすることに決めた。

2020 年の後知恵を行使しているエコノミストにとって、これは自明の決断のように見える。しかし当時は、政治的にはむしろ農場に賭けているようなものだった。振り返ってみると、それは明らかに勝利の賭けだった。そしてそれに続いて江沢民と朱容基の下で、都市工業の管理における同様の勝利の賭けがおこなわれた。

国が通常の状況にあれば、指導者はそのような危険を冒さない。同様に、国が通常の状況にあれば、朱鎔基が 10 年で 4500 万人の産業雇用を排除したときに発生したような社会的ストレスを人々は受け入れない。確かに、その 10 年の終わりまでには崩壊にたいする大衆の恐れは消えたが、朱鎔基による市場改革への大衆の怒りは激しかった。激しい改革主義は胡錦濤国家主席による「調和のとれた社会」に道を譲り、そのような混乱をさける安心できる約束が行われた。

さらに劇的なことに、今日の国内経済計画は資源の市場配分に関する 2013 年第 3 期中央委員会総会決定の下で、さらに激しい市場改革を求めている。しかし政治的抵抗は激しく、代わりに習近平が選んだのは市場改革に対する政治的統制を強調することだった。鄧小平と朱鎔基が行った取引は、何らかの形態の直接的な政治支配で市場化を社会的に有益なものにすることを放棄するものだった。だから今日では、もし似たような指導者だったら、党は国有企業と法制度の直接支配から撤退することにしたであろう。

今日の中国モデルは、中国でさえ、もはや機能しない。経済への長期的な悪影響はおそらく深刻になるだろう。

政治的には、長期的な影響は同等またはそれ以上に深刻になるかもしれない。鄧小平と江沢民のもとでは、中国共産党は社会の先駆者であり、自らの権力を犠牲してでも国民の生活を改善させていた。ところが今やそれは利益団体となっており、利用可能なあらゆる政治的梃子を手に入れ維持して、国家経済計画にさえ多大な犠牲をしいている。人々はやがてはそれを前衛ではなく利益団体とみなすだろう。

このモデルは、いかなる包括的な意味でも、通常の発展途上国でまねることはできない。このモデルは中国特有のものではないが、1940 年代と 1950 年代にひどいトラウマに苦しみ、それらに断固として対処するために政治的統制を危険

にさらし、極端な社会的ストレスを強いなければならなかった一連の諸国に特有なものであった。中国の思想的指導者たちは、このモデルを広く複製することができないことを十分に認識している。

中国モデルが世界に広がるのではないかという西側の指導者たちの不安は見当違いである。習近平が誤って冷戦型のこのモデルを輸出しようとしても成功しないだろう。

とはいえ、アジアの奇跡モデルに限界があるからといって、米英型の民主主義が至る所で最適であることの証明だとする西洋の主張を裏付けることにはならない。アジアの奇跡的経済が最も恵まれない人々の生活を向上させた成功と、インドやフィリピンのような国々で西欧の民主的モデルがそれをできていないことの対比は、途上国に代替路線の模索を促すことになりえる。すべての国が自分たちの道を選ぶことを許されるべきであるという習近平の慎重な主張は、熱心な聴衆を引き付けるのである。（了）

（筆者は米ハーバード大教授の中国専門家。記事は「東アジアフォーラム」7 月 7 日）